

岐路に立つ日本

未来を決める投票 シリーズ3

見えにくい争点？

本当の争点はこれだ！

安倍政権2年が問われるといわれていますが、今回の衆院選挙でいったい何が問われているのでしょうか。大企業の株価は上がっていても、私たちの実質賃金は下がり消費の低迷は続いています。財政投資をどんどん行い、企業の業績を上げ、それにより賃金を上げ消費を拡大し、デフレからの脱却をめざしたいいわゆる「アベノミクス」は成功しているのでしょうか。また沖縄普天間基地移転を含め「集団的自衛権・安全保証」の問題はどうなのでしょう。、国を守るという口実で戦争という災いに巻き込まれはしないのでしょうか。福島
の惨劇はまだ解決していないにもかかわらず原発再稼働が叫ばれています、「原発・エネルギー」の問題はどうなのでしょう。

争点をすり替える安倍首相

これらが争点といわれています。安倍首相は、消費税先送りを国民に問い、またアベノミクスという漠然とした経済政策を全面に打ち出し最大争点として訴えています。はたしてそうなのでしょう。、選挙告示日の中日新聞朝刊に「各地の政治学者に聞いた。争点にすべき政策」という記事が掲載されていました。それによると1位は圧倒的に「集団的自衛権・安全保障・米軍基地」の問題が上げられていました。2位に「地方活性化」と「原発・エネルギー」問題と続き、安倍首相の訴える「経済政策は」4位でした。

問うべきは安倍首相の政治姿勢

そして、安倍首相の政治手法そのものこそ争点にあげるべきだという意見もありました。これまで多くの学者間で議論されている、集団的自衛権行使を解釈憲法で閣議決定した安倍首相の政治姿勢こそ問われなくてはならないのです。政治学者も憲法への姿勢を問えと訴えています。日本の未来を左右する、集団的自衛権をあえて争点からはずし選挙を乗り切ろうという姿勢が見えてきます。今回の選挙はきわめて重要な選挙といえます。

12月14日かならず投票に出かけましょう。この国の未来のために